

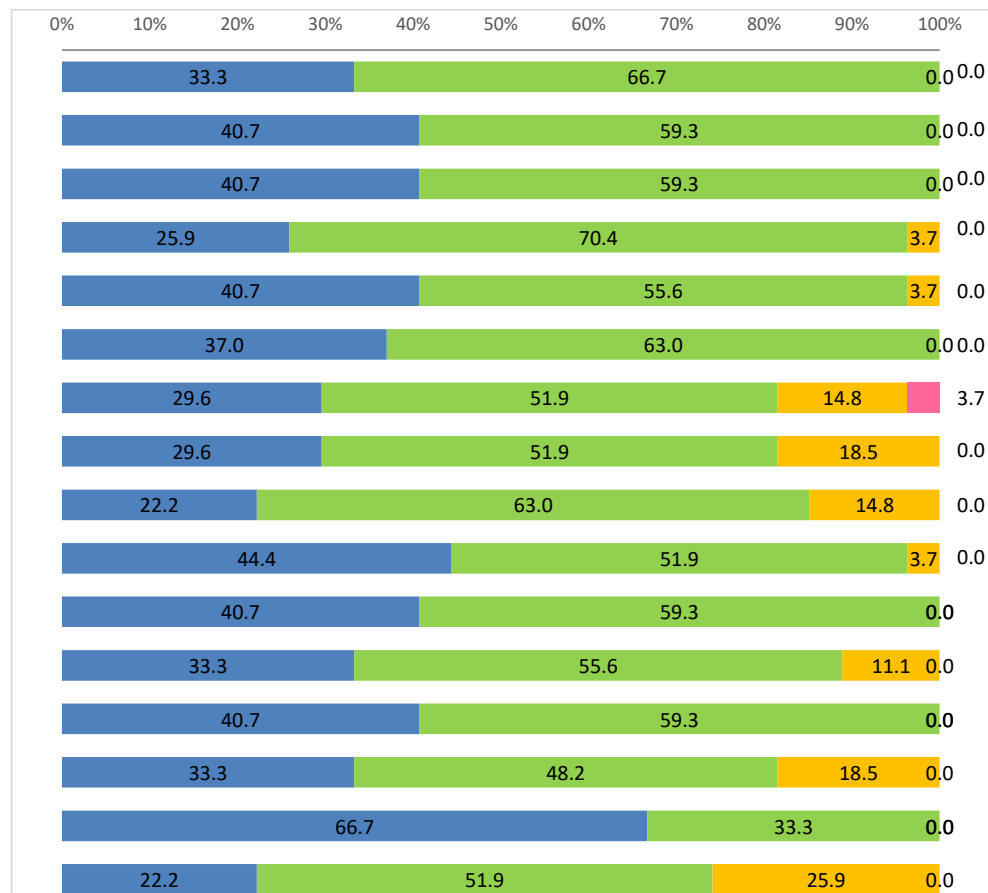
令和5年度 学校評価 教職員アンケート

学校生活について

- 1 実施 令和5年12月
2 対象 教職員(回答27)

番号	アンケート項目	回答(パーセント)				A+B
		A	B	C	D	
1	子どもの理解に努め、子どもの居場所がある学級づくりに努めているか。	33.3	66.7	0.0	0.0	100.0
2	子どもを多面的にとらえ、教師・児童相互の共感的人間関係づくりに努めているか。	40.7	59.3	0.0	0.0	100.0
3	自分の思いや考えを表現できる子どもの育成に努めているか。	40.7	59.3	0.0	0.0	100.0
4	「学び合い」の授業づくりに努めているか。	25.9	70.4	3.7	0.0	96.3
5	読み・書き・計算の指導を工夫し、学ぶための基礎・基本の力を伸ばしているか。	40.7	55.6	3.7	0.0	96.3
6	授業力、指導力向上のために研鑽を積んでいるか。	37.0	63.0	0.0	0.0	100.0
7	道徳の時間を充実させて、道徳性の涵養と実践力の向上に努めているか。	29.6	51.9	14.8	3.7	81.5
8	気持ちのよいあいさつ、「ありがとう」の感謝のことが言える子どもを育てているか。	29.6	51.9	18.5	0.0	81.5
9	体力づくりを推進するとともに外遊びを奨励しているか。	22.2	63.0	14.8	0.0	85.2
10	安全点検・安全指導に努めているか。	44.4	51.9	3.7	0.0	96.3
11	相談活動を進めることで子どもの心の理解に努めているか。	40.7	59.3	0.0	0.0	100.0
12	学校と家庭・地域との連携を深めているか。	33.3	55.6	11.1	0.0	88.9
13	分かる授業、楽しい授業づくりに努めているか。	40.7	59.3	0.0	0.0	100.0
14	地域教材や地域講師を生かした学習活動の展開を工夫しているか。	33.3	48.2	18.5	0.0	81.5
15	いじめをなくすように努力している。	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0
16	校務支援システムの活用を図り、事務効率をあげている。	22.2	51.9	25.9	0.0	74.1

- A そう思う B どちらかというと思う
C どちらかというと思わない D そう思わない



- ・「1」、「2」、「11」、「15」については、A+Bが100%であり、児童に寄り添って支援していこうとする教師の思いの表れと考えられる。
- ・「6」、「13」についてもA+Bが100%であり、「全員参加の授業」を目指して授業実践を続けているためであると考えられる。本校の誇りであるが、過度の負担とならないよう、研究の日常化を図っていく。
- ・「4」のあいさつや言葉遣いについては、保護者も学校も共通して課題だと考えている。家庭でできること、学校でできること、地域でできることを示して、共通理解のもと児童を育てていく。
- ・「12」、「14」については、創立150周年を機会に重点を置いてきた。昨年度よりも充実はできたものの、「あまりできていない」という意見もあるため、今後の課題ともいえる。令和6年度からはコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を立ち上げていく。これを機会に、学校、家庭、地域とのつながりをさらに深めていく。
- ・「16」校務支援システムの活用については、ペーパーレス化に向けて紙媒体の文書を減らしていくなど、さらなる校務支援システムの活用を図っていく。